



サイズ別に選別、農協婦人部も資金づくりにひと役買って出る



1日の処理能力 500罐 経済連をとおして東京へ系統出荷



24時間のアク抜きのあと、お化粧

カメラ・スケッチ

たけのこ

—鹿北町岩野農協にて—

農業の近代化——それは、とれたものを売る、
いう単純な過去の農業形態からの脱皮であろう。

計画生産による生産物の質の向上、加工による品価値の向上、系統販売による価格の安定

所得格差をうずめようとするたくましい動きを
こ鹿北町にも見出すことができた。

1990-01-01 00:00:00



す 1~2 時間蒸してから皮むき



4時間のアク抜きのあと、お化粧

新産業風土記・しんさんぎようふどき・新産業風土記・しんさんぎようふどき・新産業風土記

鹿北村の農業近代化

卷之三

計画書の前書きに、鹿北一帯が、昔から茶、こんにゃく、楮、筍などの特産物の大産地であったことが記されている。特に茶は、宝曆十三年（一七六〇年頃）の換地では、四百町歩、現在の十倍の茶畠である。明治の中ごろまでは、茶つみのシーズンともなると、天草方面から二千人もの茶つみ女が出稼ぎにきて、茶烟には「茶山唄」が流れたものだという。しかし、多くの労力を要する原始的生産形態、中間商人の介在する販売、山林所有者が村外者であるなどの問題をかえなまま、次第に茶園は、桑園から造林へと移り、衰微していった。ところがこれらの鹿北の特産が農業の近代化という新しい時代の脚光を浴びて、再びクローズアップされてきているのである。

が、ここ数年の間に、県外からの進出工場も含めて、一挙に十七社とふえたのをみても、最近にわかに活気を帯びてきた事業には間違いない。

農協直営の加工場である強味は、生産から販売まで、全く一貫していることである。組合員である生産者は、原料を加工場に持つてゆき、代金の返り払いをうける。製品が売れて、精算した結果、剩余がでれば、さらに追加支払いがなわれる、こういったことは農協のシステムならではあるまいか。

台湾ものとの勝負

県北の筍は、昔から福岡の八女・山門と並んで、その質のよさは定評がある。加えて、県の竹林の園地化五ヶ年計画ともあいまって中耕二回、施肥三回といふ肥培管理を徹底しつつあり、今後ますます良質の原料が期待される。

今年の出荷状況は、異常な早期出荷であった。暖冬と、生産期の雨とで、まさに「雨後の筍」そのまま、例年より二週

約三百円ほど安値だ。野菜の値下りと、金融引締めの影響で問屋筋の買気が散漫なせいである。

しかし、一般に食生活様式の変化、あるいは、消費者の嗜好（中華料理など）の変化などで先行きは明るいし、それに大抵他産地のものより鹿北の筍が十円程度の高値がつくのが自慢である。

何しろサイズ、等級、内容本数、製造年月日を明示の上、二年間の保障付きである。品質と計画的出荷とが生命である。

コワイのは、貿易自由化による台湾の丸カンである。とにかくコストがケタ違いで安いのだから、その点はちょっと太刀打ちできないが、船積みができるないこの十八坊カンで、堂々と勝負ということだ。

利、三拍子も四拍子も揃った農協の体制を挙げて、一路近代農業へ進展しているわけだ。

栗といえば、さきごろ全県下で問題になつたキツイムシだが、鹿北村では発見が早く、他より二週間も早めに防除を終えた。

若木の三割程度をやられたのであるが、発見が遅かつたら被害はもつとひどかったかも知れない。それでも年間三万本ずつ増殖が進められている。

このほか、岳間地区の高冷地そ菜、あるいはトマト、カボチャ、小玉スイカなど多角的農業が見られる。

しかし、一方、多角営農のため、作業時間が不足する、高度の技術を要求される、耕地面積が狭い、集団化の遅滞など課題も多い。

ともあれ来年は岩野、岳間、広見の各農協が一本となる。鹿北の農産の新たな飛躍を期待してよさそうである。

市況は、昨年からすれば一缶（十一・〇〇）も早くドット原料が流れ込んだ。通常、生では三日間の保存が限度である。農協関係者は十日程の徹夜。設備もフル操業でやつと処理したという。もし、これが加工という過程がなかつたならば、恐らく例の白菜の大暴落の二三の舞いをやつていたかも知れない。

鹿北村の建設計画ではミカン三百糾（現在二百糾）、栗三百糾（現在百糾）となつており、昭和四十一年からは、屑ミカン二百トンを加工することで五百万円の増収が予想される。

とにかく手もの原料、いつでも動員

鹿北村の建設設計画ではミカン三百鈴（ミカンのカン詰）というわけで、計画を練られているのがミカンのカン詰である。